


関係各位

山口市長 渡辺 純忠

## 第24回中原中也賞の発表

受賞詩集	する、されるユートピア			 <p>※画像データを御希望の方は、中原中也賞事務局まで御連絡ください。 (090-4575-1074 19:30 まで)</p>
著者名	井戸川 射子			
出版社	私家版	刊行年月日 2018年9月27日		
著者の住所	兵庫県			
年齢	31歳	生年月日	昭和62(1987)年12月1日	
性別	女	職業	教員	最終学歴 関西学院大学社会学部
<p>《コメント》</p> <p>会話は完全にはできないこと、自分の体さえ思い通りにならず、思い出には手が届かないこと、周りのみんなが、たぶん同じくらいに悲しくいること、それを形にできるものがわたしにとっては詩でした。はじめて自分で小さな詩集にまとめ、大好きな祖父が愛読していた中原中也を記念した賞をいただき、今とてもしあわせです。</p> <p>いつもいちばん近い言葉を選ぶしかなくても、詩があつて、それで良かったです。身の引き締まる思いです。この度はありがとうございました。</p>				
<p>《選考経過》</p> <p>公募、推薦の詩集218点について本年1月に開催された推薦会の検討の結果、井戸川射子『する、されるユートピア』、岩倉文也『傾いた夜空の下で』、倉石信乃『使い』、小縞山いり『リリ毛』、殿塚友美『fey』、水下暢也『忘失について』の6冊が選ばれ、本日の選考会の対象とされた。</p> <p>今回は荒川洋治委員が病気のため、選考会には候補作6作についての意見を書面でいただいて、討議に参加というかたちを取った。最終的に残された詩集は、井戸川射子『する、されるユートピア』、岩倉文也『傾いた夜空の下で』、水下暢也『忘失について』の3作であった。</p> <p>どの作品も力があつたが、討議に時間が割かれたのは、岩倉文也『傾いた夜空の下で』が、非定型の口語自由詩と定型詩である短歌作品を同列に収録していることについてであった。岩倉氏の詩集は短歌を武器にしているが、定型詩と非定型詩との間の緊張関係があることが望まれた。</p> <p>水下暢也『忘失について』は、前半の難読漢字を含む作品よりも、後半の作品数点が秀逸。物語の不思議さが際立った。</p> <p>討議が最も活発になったのは、井戸川射子『する、されるユートピア』が話題になったときであった。母の死という一貫したテーマを持ちながら、収録されたどの作品においてもそれを表面に出していない。悲しみの抒情にもたれず、むしろ機嫌よく言葉を観察している力量は、素晴らしい。「手のひらは強く握っても／すき間は絶対なくなるならない」など、作者特有の鋭い言葉のセンスは新鮮。今回の中原中也賞に最もふさわしい。</p> <p>選考委員：荒川洋治（書面参加）、井坂洋子、佐々木幹郎、高橋源一郎、蜂飼耳（50音順・敬称略）</p>				

《山口市長コメント》

第24回中原中也賞が、井戸川射子<sup>いどがわいこ</sup>さんの詩集『する、されるユートピア』に決定しましたことを、心から御祝い申し上げます。

この度受賞されました井戸川射子<sup>いどがわいこ</sup>さんが、今回の受賞を契機に尚一層、活躍の場を広げられ、さらなる飛躍をされますようを心から御期待申しあげます。今後とも多くの方々が、中原中也賞をひとつの目標として創作活動に励んでいただければ幸いです。

平成31年2月9日 山口市長 渡辺 純忠

※受賞者の年齢は、2019.02.09 現在